

令和2年

雲南市議会 9月定例会 一般質問通告一覧表

【一般質問日程 令和2年9月7日～9月10日】

令和2年雲南市議会9月定例会 一般質問通告一覧表 目次

順番	日程	議席番号／氏名	質問方式	ページ	順番	日程	議員番号／氏名	質問方式	ページ
1	9/7(月) 10時00分～	18/堀江 治之	一問一答	1～2	11	9/9(水) 10時00分～	7/白築 俊幸	一問一答	15～17
2		11/西村雄一郎	一括	2～4	12		12/土江 良治	一括	17～18
3	9/7(月) 13時00分～	15/藤原 信宏	一括	4～6	13	9/9(水) 13時00分～	21/周藤 正志	一問一答	18～19
4		6/矢壁 正弘	一問一答	6～8	14		1/上代 和美	一問一答	19～21
5		13/安井 誉	一括	8～9	15		10/藤原 政文	一括	21～22
6	9/8(火) 10時00分～	9/佐藤 隆司	一問一答	9～10	16	9/10(木) 10時00分～	8/細木 照子	一括	22～23
7		20/深田 徳夫	一括	10～13	17		4/中村 辰眞	一問一答	23～25
8	9/8(火) 13時00分～	2/中林 孝	一問一答	13～14	18	9/10(木) 13時00分～	3/松林 孝之	一問一答	26～27
9		14/細田 実	一問一答	14～14					
10		5/原 祐二	一問一答	14～15					

令和2年雲南市議会9月定例会 一般質問通告一覧表

令和2年9月1日

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
1	18	堀 江 治 之 (一問一答)	1. マイナンバーカード取得について 2. 学校へのスマホ持参容認について 3. 豪雨災害における防災・減災について	(1)行政手続きが簡素化できるとして、国は国民にマイナンバーの付与とカード取得に積極的に取り組まれてきた。しかし取得率は低迷しており、雲南市の現状と今後の方針を伺う。 ①本年1月末の市内取得率が11%で、本年度末までに3割以上の取得率をめざすとされているが、その現状を伺う。 ②総務省は、マイナポイント(本年9月～来年3月)、健康保険証として活用(来年3月から予定)運転免許証として一体化(検討着手)、等々次々と新制度の実施・検討をされているが、市としての見解を伺う。 (1)文部科学省が中学校へスマートフォンの条件付きで持参を容認するとの方針をだされたが、市の現状と取組方針について伺う。 ①市内中学校のスマホの取扱いの現状と今後の方針について伺う。 ②スマホトラブルとして、メール等による個人に対する誹謗中傷が懸念されているが、対策について伺う。 (1)今年も梅雨末期には各地で豪雨災害が発生し、尊い人命、家屋等に甚大な被害を受けた。 そこで、豪雨災害における防災・減災の取組について伺う。 ①斐伊川水系において、豪雨の前にダムの水位を下げる事前放流を可能とする治水協定を締結されたようだが、協定内容とそのリスクと効果について伺う。 ②最近浸水被害に対し「垂直避難」が推奨されているが、市の見解を伺う。	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				③新型コロナウイルス等感染症により、指定避難所の設置基準・考えが変わってきていると思うが、今後の指定避難所の設置において基準等の考え方を伺う。	
2	11	西村 雄一郎 (一 括)	1. 雲南市の教育について	<p>(1) 市民の教育への理解の広がりについて 市民にとって、教育、人づくりが見えにくい。それが、教育への無関心につながっている。教育に心を砕いている人は、自主組織役員、学校評議員、民生児童委員、通学見守り等多数いるが、それらの人が、互いの連携をとり、広く市民を啓発し、関心理解を得ることが、必要ではないか。教育、人づくりの社会的一体感の醸成が必要ではないか。四年間の教育長としての評価を踏まえ、教育長のお考えを伺う。また、その方策を伺う。</p> <p>(2) 小中一貫教育について ①小中一貫教育導入の校区選定方針と導入計画について伺う。 ②中学校区の再編は視野にあるのか改めて伺う。</p> <p>(3) ICT 教育の推進について ①先生方の IT リテラシー、新しい指導法の習得向上の方策について伺う。 ②今後必要とされるリモート学習における機会均等の確保、すなわちパソコン等の機器や Wi-Fi 環境等がすべての生徒の家庭で利用できること、そのために不可欠なデジタル機器の使用、学習時間、場所の確保等家族の理解を得る必要性や啓発について伺う。 ③ICT 教育は、各生徒の到達度や興味に合った指導について、従来の教室中心の教育よりなじむとされている。しかし、雲南夢ネットやユーチューブの SATURDAY AT HOME は残念ながら双方向ではない。</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>双方向の教育の確保について伺う。</p> <p>④今後整備される光回線で、学校と家庭との双方向の通信は可能か。</p> <p>(4) 小学校の教科担任制の導入について</p> <p>①文科省から小学校の教科担任制導入の方針が出された。その効果課題について伺う。</p> <p>②教科担任制は教科毎に教員が必要で、教員の数が増加、確保の必要がある。さらに小学校は六年制であるので中学校以上に多くの教員が必要とされる。小規模校では、教員室等の大きさはもちろん、それぞれの学校の教員配置数が増える。限られた教員数で有るので結果として大規模校に集約される結果とならないか。英語、プログラミング教育、ダンスなど今までにない専科の教員が必要で、学校集約化が進まないか。雲南市の学校の適正規模、適正配置の計画の見直しが迫られるが、雲南市の考えは、現時点でどうか伺う。</p> <p>(5) 新型コロナと学校教育の共生について</p> <p>①市民には、学校、教育に協力する人がたくさんおられる。その人たちに留意していただきたいことがあればご教示願いたい。</p> <p>②ICT 教育と併せて伺いたい。新型コロナ感染拡大防止のため、運動会は中止、あるいは家族、地域の参加がない。修学旅行は中止あるいは県内。長崎との交流も困難なときである。従来の延長線上にない教育の姿になった。雲南市のキャリア教育は、「これからはどんな社会になるのか予測がつかない。どんな職業が生まれ、どんな仕事がロボットに変わられるのか分からない。そんな時代を生き抜く力を子供達につけてもらいたい」というのが一つの理念と思う。キャリア教育を視点にして、市長、教育長の思いを伺いたい。</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>2. 文化、芸術の振興について</p> <p>3. 図書館について</p>	<p>文化芸術は、人間の営みの重要な部分と考える。キラキラ雲南、地域自主組織、各クラブ、サークルの活動を有機的に結ぶことはできないか伺う。</p> <p>図書館は、社会教育の面からも学校教育の面からも、大切な社会の構成要素と考える。平成 29 年 9 月定例会の一般質問で、図書館図書室のあり方について質したところ、中央図書館について、「そんなに遅過ぎるのかというふうに言われないように、実施計画にものせ、その裏づけとなる長期財政計画にものせて、それが実現されなければならないということは誰も認識を一致させることができる考え方だ」と答弁があった。それを受けて教育長は図書館のあり方配置についてどのようにお考えか伺う。三刀屋の永井隆記念館の改築、掛合交流センターの新築等により、雲南市の図書館図書室の見直しは、図書館配置本の数の偏在、司書の偏在を積み残したまま可とするのか。雲南中央図書館の計画の現状を伺う。</p>	
3	15	藤原信宏 (一括)	1. 新型コロナウイルス感染者発生時の初動対応について	<p>7月21日、とうとう市内で初めてのコロナウイルス感染者が確認された。感染が市役所内部からとあって、発生直後の対応について多くのご意見や苦情を聞いた。</p> <p>(1)だれしも疫病に怯え疑心暗鬼になっており、正確な情報を早期に伝えないと不安を煽り、あらぬ噂や混乱を招く。情報が遅れば個人の内構えや行動に遅れや戸惑いが生じる。</p> <p>詳細はともかく、市内で市役所で感染者が確認されたと言う事実は、もっと早くに公表・告知すべきでなかったか伺う。</p> <p>(2)地域が関わる公共施設、交流センターや集会・貸館施設の対応について、発生直後に緩和した改定案を指示するのは理解できな</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			2. 豪雨災害対策について	<p>い。感染の実態が明らかになるまで、地域の行事や貸館は控えるように統一的な指導をすべきで、変更した方針は安全を確認した後に示すべきであったと思うが、どうか。</p> <p>(1) 従来 of 経験が通用しない豪雨災害への備えは待ったなしである。「未知の災害の脅威への想像力」を逞しくして危険を察知し、いち早く家族・隣人に呼びかけ逃げる事が一番だ。「自分の命は自分で守る」、改めてハザードマップ等で自宅の安全性や避難場所・経路を確認して水害時に備えておくことが肝要だが、自ら命を守る自助の意識啓発について所見と取組みを伺う。</p> <p>(2) 避難所は、その都度判断されるが、命を守る迅速な行動を取るためには、近隣の安全な場所や自宅内避難も含めて、災害の種類による避難場所を予め特定しておく必要があると考えるがどうか。</p> <p>(3) 三刀屋大橋上流部の三刀屋川が溢流（いつりゅう）すれば、アスファルト敷地に流れ込み浸水して孤立する。溢流に備える避難所にアスファルトは不適當と考えるがどうか。</p> <p>(4) 自主組織の活動拠点が避難所として不適當では災害時の対応に絶えず困難が強いられる。いま一度、全交流センターの安全度を再点検され、少なくともレッドゾーン絡みや複数（地震・水害・土砂災害）の災害に難があるセンターにあっては、移転・改築の順位を繰り上げるべきと考えるがどうか。</p> <p>(5) 三刀屋大橋上の三刀屋川左岸地区に度々発令される高齢者等避難開始は効果が薄い。次の段階の全員緊急避難指示となった時にオオカミ少年効果が働くことが心配である。一律ではなく現地の実態に鑑み、避難準備のみに留めることはできないか。</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>(6)防災行動計画（タイムライン）の策定について、その中核を担うのは現地災害対策本部（総合センター）と地域自主組織等の自主防災組織との連携だと解して良いか。</p> <p>(7)洪水の際に水位を下げるためにも、早期に県主体での天神頭首工の可動堰化に取り組む必要があると思うが、所見を伺う。</p> <p>(8)感染症によって避難をためらうことがあってはならない。感染対策用のマスクや消毒液、間仕切り、個別テント等の相当量は確保されているか。</p> <p>(9)各交流センターに一定額を交付して、地域の望む災害用備蓄品を備えるのはどうか。</p>	
4	6	矢 壁 正 弘 (一問一答)	1. 新型コロナウイルス感染症対応について	<p>(1)市内感染者発生の対応について</p> <p>①本市内での感染者発生を受け、これまでのコロナ対応により成果が出始め客足が戻りつつあった飲食業等サービス業界では軒並みキャンセルが相次いでいると聞く。これまでも増した対策が必要と思うが見解を伺う。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症は未だ収束の目処が立たないなか、市内の経済は大きく停滞すると思われる。今後も第2波・3波が心配されるなか中長期的な施策も考えなければならないと考えるが見解を伺う。</p> <p>③市内感染の一因としては県外出張が考えられる。本市として盆明けまで県外出張は取り止めとされたが、今後、必要な県外出張・視察が行われると思う。きちんとしたルールの作成が必要と思われるが見解を伺う。</p> <p>④小中学校の諸行事が縮小中止されてきた。今後、修学旅行につい</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>2. 農業対策について</p> <p>3. 高齢者施設の災害対応について</p>	<p>でも検討されると思うが、子どもたちの思い出づくりのためにも何とか実行してほしいとの保護者の声を聞いた。感染者が多い都会地へは問題も多いと考えるが、県内でも学べる場所は多くある。見解を伺う。</p> <p>(1) 食の発信推進事業について</p> <p>① 本事業は6月定例会において承認され本格的に動き出した。以前から本市の特産物について議論されてきたが、本事業ではイチゴをメインに事業展開が計画されている。今後、本市の特産はイチゴを中心に展開されるのか見解を伺う。</p> <p>② 特産品であれば一年を通しての栽培が必要であり、通年出荷が必要となるが対策はどのように取られるのか伺う。</p> <p>③ 通年栽培を可能にするには農家（生産者）との連携が最も重要と考える。独自の品種開発、施設や技術の支援など生産拡大・農業所得増加に向けた対策を伺う。</p> <p>④ 本事業は雲南市内の農業振興や6次産業の発信事業など農業の中心施設としての役割が求められている。今後の利用推進について考えを伺う。</p> <p>(1) 高齢者施設の市内状況について</p> <p>① 今年も全国で豪雨災害により高齢者施設が被害にあい多くの方が被災された。本市内では、浸水想定区域や土砂災害警戒区域内に位置する施設があるのか伺う。</p> <p>② 各高齢者施設において災害時の避難計画の作成や避難訓練は実施されているのか伺う。</p> <p>③ 各施設の判断により被害の状況は大きく違っているようだ。避難</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				の判断は各施設に任せられていると思うが、本市として施設と連携を取りながら早い対応が取れるような対策は取れないのか伺う。	
5	13	安 井 誉 (一 括)	1. 生涯学習の理念 について 2. 生涯学習親学プログラム について	<p>(1)生涯学習の理念としては、学習社会の実現がなされなければならない。教育委員会としての学習理念の方向性を問う。</p> <p>(1)平成30年に策定された教育振興基本計画には、「生涯学び、活躍できる環境を整える」とされている。「少子高齢化や人口減少など社会を取り巻く環境が急激に変化する中、今後の社会教育には、全ての住民が地域社会の構成員として、社会参加できるような社会的包摂（ほうせつ）への寄与、社会の変化に対応した学習機会の提供が期待され、その重要性は更に高まっていくと考えられる」と記されている。生涯学習には、親が子に愛情を注ぐこと、子が親を大切に想うことは言うまでも無く、人間性を磨くことがとても重要である。そこで、親学プログラムを広めていくことが重要であり、本市では、主催者側、住民への通知はどのようにおこなっておられるか、また、実績もあればそれを含めて問う。</p> <p>(2)生涯学習の推進に当たっては、社会人の学び直しとして大学等における「リカレント教育」等が推進されている。一方で住民参加の主体的な参画による「社会づくり・地域づくり」の重要性も増しており、地域の交流センター等を拠点とした社会教育への期待が高まっている。</p> <p>地域における住民参加の取り組みを通して、公共心が養われるなど道徳的な成果が生じている事例がある。例えば「通学合宿」や「心を育てるルールブック」の作成などがある。</p> <p>特に「親学プログラム」では、親としての役割や子供との関わり方</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				について、気づきを促すことを狙いとする学習プログラムだと理解しているが、教育委員会としてどのような成果が得られていると思われるのか、また、反響・成果を踏まえ、もっとより良くしていくための改善点を問う。	
6	9	佐藤 隆 司 (一問一答)	1. 健康づくり拠点 施設「ラソソテ」の 運営状況について 2. 学校給食センタ ーの運営状況につ いて 3. 農業振興策につ	(1)2018年7月にオープンし3年目を迎えている健康づくり拠点施設である「ラソソテ」は、他のプール施設等との連携強化を図り、市民の健康づくりを推進するとされている。 ①雲南市健康づくり拠点整備基本計画で「継続協議事項」とされていたが、その協議結果を示される必要があるのではないか。 ②基本計画では利用料収入を増やし、指定管理料の縮減を図るとされているが、実績の精査と今後の見通しは。 ③令和元年度の健康づくり拠点施設の利用者実績で、市内・市外利用者の人数割合は。 ④市内各町の利用者人数の割合から健康づくり拠点の役割は果たされているのか。 (1)2019年7月オープンされた中央学校給食センターについて ①地元野菜の使用率が急激に上昇していると聞くがその要因は。 ②学校給食野菜生産者の現状と今後の見通しは。 ③旧木次給食センターの冷蔵施設と配送車両車庫の今後の考え方は。 (2)給食センターの食品廃棄物について ①処理方法は現状どのようにされているのか。 ②生ごみを循環型農業等に活用できないのか。 (1)食の幸発信推進事業の課題とされている産直野菜生産者数や年	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			いて	<p>齢の現状データから生産者数を維持しつつ、更なる生産者の掘り起しを行い生產品目や出荷量の拡大につなげる必要がある。</p> <p>①10年後の生産者数、出荷量をどう見通しされているのか。</p> <p>②新型コロナによる「新しい生活様式」や「田園回帰」の流れを追い風に、少量多品種で栽培すれば「プチ収入」でちょっと稼ぐことができると同時に安心安全な野菜を自らチャレンジし栽培する広がりも期待できるのではないかと考えるが見解を伺う。</p> <p>③今回、あらためて農業や食の大切さが再認識されたことに加えて、農業での健康増進や生きがい創出の効果、レクリエーション的な野菜づくり、健康・生活を意識した自家用野菜づくりは、農家に留まらず非農家を中心に増加していくのではないかと推測する。市とJAの連携でシェア農園（チャレンジ農園・レンタル農園・市民農園）を整備し、具体的な実践（菜園講座・教室）で安心安全な野菜の生産者を増やす“きっかけづくり”、まさに「食の幸」発信推進の展開をすべきと考えるが見解を伺う。</p>	
7	20	深 田 徳 夫 (一 括)	1. 幸せを感じる豊かな雲南市の発展について	<p>速水市長は、6町村の合併後の基盤の均衡発展と融和をモットーに行政を推進された。</p> <p>市役所や市立病院など大きな事業が進んだ中で、合併当初の一般会計・特別会計合わせて847億円の起債借金が大型事業を推進したにも関わらず496億円に減り、基金積立金は79億円から115億円へと増えてきた。キャリア教育をはじめとする、子供から大人・企業のチャレンジ、将来の人材育成方針、或いは全国に先駆けた小規模多機能自治の自主組織の育成、均衡のとれたインフラ整備など、まさに、「幸せを感じる豊かな雲南市の発展に」結び付く政策推進であっ</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>2. 政策立案の方法 について</p> <p>3. 特定地域づくり 事業協同組合制度 について</p>	<p>たと高く評価する。 このような中であって、5 選を目指し出馬表明されていたが、大方の市民は政策を高く評価している中で、出馬表明された新人の方が、政策的には一致しているとの判断で一転出馬を取り辞められたが、この決断の背景を伺う。</p> <p>(1)今後の雲南市のとるべき政策は、新型コロナウイルス終息後を見据え、必ずや地方回帰が本物になり、Uターン・Iターンなどを希望される方々が出てくる。その受け皿となる施策を早急に取り組む必要があると思う。</p> <p>今回立候補を表明された方は、市民の理解を得る努力をされないまま、大型事業が進められていると報道された。これまで大方の事業に対して議会とキャッチボール議論を繰り返し決定推進してきた。今回の食の幸発信推進事業なども農家を守るため、農福連携事業として5年の年月をかけ議会と議論をおこなってきている。この事業を指してならば、議論を繰り返してきた議会にも責任があると思っている。</p> <p>企画に問題があるとするならば、今後は、政策立案には執行部はもとより議会と一体となって、市民を巻き込んだ検討会議を持ち企画すべきと考えるが一般論としての所見を求める。</p> <p>(1)細田法案と言われたこの制度は、「特定地域づくり事業協同組合制度」として、まさに新型コロナウイルス後の若者の移住定住の受け皿づくりでもある。雲南市の自主組織などがモデルと言われる中で、雲南市の取り組みは、他の自治体からも注目されている、本市が県下で2番ではいけない受け皿などの進捗状況は如何か。加えて、</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>4. 関係人口の人づくりについて</p> <p>5. 思いやりのある事業推進について</p>	<p>元気ファームズよしだや鍋山担い手ネットワーク協議会が、自主組織と連携、地域挙げての担い手対策の取り組みは、特定地域づくり事業と共に他地域にも広げていくべきと考えるが処方と所見を求める。</p> <p>(1)本市の 2019 年度の UI ターン者は 126 人で前年から増減なしと県が発表している。しかし社会減は続いている。</p> <p>田園回帰の時代とも言われ、オンライン等働き方が変わる中で、新型コロナウイルス終息後を一隅のチャンスと捉え、一つの方法として、雲南市にゆかりのある人や愛着のある人たちの「関係づくり」を目指し、既におこなわれている情報発信や地域活性化の取り組みを強化するために、「雲南市コミュニケーションクラブ」の設立を提案する。</p> <p>市在住者、勤務者、出身者、ゆかりのある人、市を愛する人など多くの方に雲南市のファンになって登録いただき、年一回は集い交流を深め活動を展開するクラブである。交流人口と定住人口の間に眠る「関係人口」を掘り起こす具体策と考えるが検討の余地を伺う。</p> <p>(1)加茂町は、特徴的な地形の中で赤川を始め多くの河川があり、その河川上には昔から板橋などが架かり農道としての活用、生活道路等として活用されてきた。昭和 39 年の山陰地方を襲った集中豪雨により河川に架かる板橋がことごとく流され、その復興の過程で簡易な鉄の橋等が架けられてきた。</p> <p>これが現在に至り老朽化架け替えや修繕が必要となった。この改修要望に対し、地域の実情は考慮無く、合併後の方針は 6 町一律の考え方での返答。公平性・平等性だけでは解決しない課題であり、再</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>度の状況把握と再検討を求め所見を伺う。尚、市単独土地改良事業の補助率アップなども解決策の一つであると考え提案する。</p> <p>また、環境保全の原点とも言える草刈り・除草の特に河川内の草刈りは、高齢化・一人世帯等増加する中で、住民の負担は限界を超える状況にある。今後の河川内の除草の在り方を早急に検討すべきと考える。これからの行政はもっと住民に寄り添った「思いやりのある事業推進」こそ、住みたくなり住んで幸せな雲南市の目標達成になる、如何にすべきか処方箋を伺う。</p>	
8	2	中 林 孝 (一問一答)	<p>1. コロナ感染症への対応について</p> <p>2. 清嵐荘の運営について</p> <p>3. 地域要望への対</p>	<p>(1) 雲南市立病院はコロナ感染症対策により経営成績にどのような影響があったか。専用病床の稼働状況、診療報酬、人繰り対策による人件費等について伺う。</p> <p>(2) 一般会計から病院事業会計への繰り出しはあるか。</p> <p>(3) 雲南市職員の感染原因、経路は何だったか。今後、防止策を講じる上でどのような点に留意すればよいか。</p> <p>(4) 一連のコロナ対策に要した費用は、本市でどの程度あったか。</p> <p>(5) 様々な中小企業対策が講じられているが十分ではない。追加対策が必要と考えるが、今後、どのような対策を打つか。国や県との連携は勿論、国や県制度で十分に行き届かない部分への補完も必要と考えるが、どう対応するか。</p> <p>(1) 清嵐荘は間もなくオープン1周年を迎える。稼働率ほか経営成績について伺う。</p> <p>(2) 今後、経営の立て直しをどう進めるか、また、金融等の支援を考えているか。今後の指定管理についての方針を伺う。</p> <p>(1) 自主組織を通して多くの地域要望が提出されている。地域要望に</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>応について</p> <p>4. 木次線について</p>	<p>どう応えていくか、自主組織のあり方も含め伺う。</p> <p>(1) 木次線存続に向け覚悟と決意、今後の取り組みの具体策について伺う。</p>	
9	14	細 田 実 (一問一答)	<p>1. 新型コロナ感染 対策と地域医療</p> <p>2. 島根原発の安全 対策</p> <p>3. 農業振興と有害 鳥獣対策</p>	<p>(1) 新型コロナ感染の拡大により病院でのコロナ対策や受診抑制などにより全国では病院経営の悪化が報じられている。雲南病院の状況について伺う。</p> <p>(2) コロナウイルスとの共存を言われる現在、住民の期待も高い地域医療の中心の病院としてどのような対策で臨むのか。</p> <p>(3) 保健所の統合、廃止など国の感染症対策が後退している中での今回の新型コロナウイルス感染症の事態を招いている。国、県に感染症対策を含め地域医療の充実を求めていく必要があると思うがどうか。</p> <p>(1) 島根原発のサイトバンカ建物の巡視未実施が発覚し中国電力の安全対策、原発への不安が増している。市としての対処を伺う。</p> <p>(1) 今年も各地で獣害被害対策の充実を要望されている。農林振興部の重点課題にも上げられ「駆除活動の支援」となっているが行政の主体的な取り組みが必要になっているのではないか。</p>	
10	5	原 祐 二 (一問一答)	1. 行政のデジタル サービスについて	<p>(1) 新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA (ココア)」について</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症の感染者と接触した可能性について、通知を受け取ることができる「COCOA」を本市ではどのように捉え、活用しているのかを問う。</p> <p>② 市職員(行政職員・子育て施設職員・病院職員等)の「COCOA」の導入(インストール)状況を問う。</p> <p>(2) マイナンバー(個人番号)カードについて</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>①本市におけるマイナンバー(個人番号)カードの活用状況(コンビニ利用・国税電子申告・納税システムなど)及び世代別の発行状況を問う。</p> <p>②マイナンバー(個人番号)カードを活用した、今後の行政サービスと検討状況を問う。</p> <p>③マイナンバーカードの代理人受け取りについて、新型コロナウイルス感染拡大防止のため外出自粛を行う場合や交通手段の確保が難しい場合などの是非を問う。</p> <p>(3)行政におけるキャッシュレスサービスの導入について</p> <p>①社会全体のデジタル化が進む中での、キャッシュレス決済の意義と市内事業所や市の指定管理施設における、キャッシュレス決済の状況を問う。</p> <p>②本市におけるキャッシュレス決済の方針と検討状況について問う。</p> <p>(4)新型コロナウイルスとの共存社会において、市民の利便性の向上、新型コロナウイルス感染拡大防止、窓口業務の効率化に向けた、行政のデジタルサービスについて市長の所見を問う</p>	
11	7	白 築 俊 幸 (一問一答)	1. 新型コロナ感染症対策について	<p>(1)新型コロナウイルス感染症の影響で減収した事業者に対する「持続化給付金」について、法人格のない「見なし法人」は、法人税を納めているのに給付対象になっていないのはおかしいとの声が上がっている。この事例は本市にもあり、はたマーケットと満壽の湯を運営する波多コミュニティ協議会では、窮地に立たされている。市にも既に相談されたようであるが、見解を問う。</p> <p>(2)この問題は、全国的な問題であり、参議院の経済産業委員会で</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			2. 第5期中山間地域等直接支払制度について	<p>もとりあげられた様であるが、その後の検討状況が分かっているならば報告願いたい。</p> <p>(3)波多コミュニティ協議会の「満壽の湯」は指定管理されており、指定管理料は、通常3年に1回改定される。市内には同様の課題を抱える指定管理施設も多々あると思うが、この度の非常事態に際し、3年に1回とか言わずに、この際、減収分の補填策を考えてはどうか。</p> <p>(4)国や県の制度では対応できない場合、相応の必要性があれば市単独でも補助制度を創設して、困っている市民を救済するのが地方自治体としての役割ではないか。</p> <p>(5)このコロナ禍は簡単には収束しない状況下で、今後、医療体制の整備あるいは経済対策の実施等、相当の費用が必要となってくる。国・地方を通じ、1000兆円を超える財政赤字の中で、国のフトコロも心許ないが、目前の危機を乗り越えるためには、背に腹は変えられないと思う。しかし、全てを国に求めることが出来ないとする、必要とする財政需要に対し、地方も対応せざるを得ない。市は、これまで、財政健全化法に基づく4つの指標を忠実に守ってこられたが、コロナ禍が未だ収束せず、更なる拡大も予想される中で、これからの財政運営はどうなっていくのか伺う。</p> <p>(1)中山間地域等直接支払制度第5期対策がスタートし、先般、集落協定の計画認定が行われた。この度の認定は4期対策と比較し、協定数や対象面積等、どういう状況になっているか。</p> <p>(2)加算措置も大きく新設・拡充されたところであるが、その取組状況はどうか。</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>(3)特に、複数集落が連携して取組む加算の状況はどうか。</p> <p>(4)新協定の締結に向けて、これまで集落からの相談あるいは集落への指導に当たってこられた。そしてまた、この度の結果を踏まえて、今、地域農業の状況はどうなっていると感じられたのか、率直な感想を伺う。</p>	
12	12	土江良治 (一括)	<p>1. 災害救助法が適用されない災害への備えは十分か</p> <p>2. 斐伊川に自生する樹木伐採の必要性と請川合流点付近狭窄部拡幅対応の今は</p>	<p>今年も各地で「過去に経験したことがない」「観測史上最高」とかの豪雨災害が発生した。本市も避難準備高齢者等避難開始が発令されたところも出てきた。</p> <p>いままでの避難方法に今はコロナが加わった。例えば感染の危険を抑えつつ、避難者のプライバシーも保護しなくてはならない。その上コロナ禍の災害ボランティア対応も加わる。それらの費用は相当な額になる。そこで伺う。</p> <p>(1)今年のような豪雨災害は対岸の火事ではない。避難費用など不安解消のため避難保険のほか、防災・減災費用保険加入は十分なされているか。</p> <p>(2)コロナ禍による想定備品は何があって、その備えはどこまで検討、準備されているのか。</p> <p>(3)今年の各地の大豪雨災害について、所感は。</p> <p>タライをひっくり返したような頻発豪雨。テレビ映像で斐伊川の氾濫を夢想した。次の2点を伺う。</p> <p>(1)木次大橋から三刀屋川合流点間に自生する樹木は流速を阻害する。これが原因となって堤防越流が始まる。樹木伐採を早急に進めるよう国に働きかけるべきではないか。</p> <p>(2)請川合流点付近は斐伊川の狭窄部である。過去拡幅が検討されて</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			3. 雲南消防署前の 国道 54 号、何をし ようとして、いつ まであの状態なの か	いた。今、何故か請川右岸に道路が作られつつある。この意味が分 からない。斐伊川の放水路も出来ている。何故川幅拡幅が出来ない のか、あらためて伺う。 「何をしようとしているの?」「いつまであの状態?」。住民から訊 かれても答えられなかった。あらためて 1 から説明して欲しい。い ずれにしろ雲南市玄関に当たるところ、早くさっぱりすべきだ。	
13	21	周 藤 正 志 (一問一答)	1. 未来につなげる 市政について	速水市政 16 年の成果を水泡に帰すことなく継承し、希望ある未来へ つなげるために必要な共通認識は何かを問う。 (1) 市政運営の根幹である財政については、コロナ禍、人口減少等 により今後大変厳しい状況に陥ることになる。未来へつなげるために 必要な財政運営の要諦は何か。 (2) 持続可能な地域社会モデルである地域自主組織であるが、地域自 主組織そのものが持続可能でなければならない。そのために必要か つ肝心な点は何か。 (3) 市長が進めてきた、まちづくりの 3 本柱は、シンプルでわかりや すくかつ正しい方向性を示しており、今後も継続されるべきである。 それぞれの達成度と今後の課題についてどう総括しているのか。 ①安心安全なまち ②活力と賑わいのあるまち ③健康長寿・生涯現役のまち (4) これからのまちづくりは、人口減少を与件とし、リスクを最小に かつ分散させた上で、市民が困ることなく、個人の QOL (クオリテ	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>2. コロナと人権について</p> <p>3. これからの地方自治に求められるもの</p>	<p>イ・オブ・ライフ) を高め、全体の底上げを図ることが目指されなくてはならないのではないかと。</p> <p>コロナに関する誹謗中傷が後を絶たず目に余るものがある。市、人権センター、人権擁護委員が連携し、具体的な対策と行動をとるべきではないかと。</p> <p>約 30 年、地方自治の最前線に立ってこられた市長にとって、これからの地方自治に求められるのは何だと考えておられるか。</p>	
14	1	上 代 和 美 (一問一答)	1. コロナ問題について	<p>(1)8月8日から報告されている松江市の100人を超すクラスター感染は県民に衝撃を与えた。秋冬にかけて感染拡大が心配されている。どこでこのような事態が起こってもおかしくない。雲南市でも、感染が確認されたが、市役所を中心とした面的、網羅的なPCR検査の実施により感染の拡大を抑えられたことはこれからの教訓になる。コロナ感染拡大を防ぐカギはPCR検査の抜本的拡充である。東京医師会、日本医師会も無症状の感染者も含めた検査体制の確立が必要と提唱されている。全国的な状況を見ながら、感染リスクが高く、感染すると重症化が危惧される病院・介護施設、福祉施設などの職員、患者、入所者にたいして、感染の有無にかかわらず、PCR、抗原、抗体などの検査が定期的に行えるようにすべきではないか。</p> <p>(2)秋冬にかけてインフルエンザの流行も心配されている。症状がコロナ感染症と似通っているが、発熱者に対する対応は万全か伺う。</p> <p>(3)コロナ感染者で無症状者、軽症者を隔離、保護する施設が市内にはないということだが、本当にそれでよいのか。他地域での感染拡大も考慮に入れて市内に</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			2. 少人数学級について	<p>も想定しておくべきではないのか。</p> <p>(4) コロナ対策において、収入が大きく落ち込んでいる世帯への国民健康保険料の減免制度は、当事者にとってとても助かる制度である。現時点で 16 世帯からの申請が提出されていると報告をうけている。国の持続化給付金を申請された方や市の緊急事態宣言消費活動減退対策支援事業の補助金を申請されている方（前年同月比で 30%～50%未満）、会社都合で離職をすることになった方で国保加入世帯であれば減免の可能性がある。市として様々な情報で周知されているが、もう一工夫が必要ではないのか。見解を伺う。</p> <p>(5) 新型コロナの影響で、本年度産米価は前年比概ね 8%前後の下落が見込まれているとの報告をうけた。消費税の増税の上に米価の下落になれば、大変な影響が農家にはかかってくる。農業を継続してもらうためにも、市として国が備蓄米の買い入れなどで米価の下支えをするよう強く要望していくべきである。</p> <p>(1) 昨年 12 月定例会で県提案の少人数学級編制見直しについて一般質問で取り上げた。教民委員会でも議論され、雲南市議会として「少人数学級編制」に係る基準の堅持を求める意見書を県に提出した。コロナ禍における全国一斉休校を経験することによって、さらに踏み込んだ少人数学級編制実現の世論が全国的に大きくなりつつある。少人数学級編制は感染予防のため、また、なによりも子供たちへの手厚い教育、柔軟な教育のためにもどうしても必要である。市長、教育長の見解を伺う。</p> <p>(2) コロナ禍の全国一斉休校は子どもたち、保護者、教員に今まで経験したことのない問題をつきつけ、ストレスを与えることとなった。</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			3. 熱中症対策について	<p>学校再開後も、勉強をとりもどすこと、感染防止、炎天下の登下校など特に子どもたちへの負担が大きくなっている。このような状況のもと、来年度からの島根県の少人数学級編制変更はありえない。凍結、撤回を県に要望すべきではないか。</p> <p>(1) 気候変動によるここ何年かの夏の猛暑は自然災害である。毎年のように熱中症で病院に運ばれ、入院、死亡する方も少なくない。市民の命を守ることは行政の最も重要な仕事である。生活保護世帯や生活困窮者へのエアコンの設置補助を考えるべきではないか。(千葉県松戸市では設置補助を実施している)</p>	
15	10	藤原政文 (一括)	<p>1. 尾原ダム事業について</p> <p>2. 学校教育について</p>	<p>(1) 尾原ダムの効果(下流域の水位の低下、治水効果等)と弊害(環境、農業用水への影響等)についての現状を問う。</p> <p>(2) 長期間にわたる多くの先人の皆様のご労苦に報いるためにも、同ダムが最大限の効果を発揮することができるよう「3点セット」事業の内下流域事業の早期完成に向け、市として国・県・関係団体に働きかけるべきだ。市の取り組みについて問う。</p> <p>(3) ダム周辺地域の活性化の評価と今後の方針を問う。</p> <p>(1) 少子化の中にあって、小中学校の適正規模適正配置、学校教育についての見解を問う。</p> <p>① 「学力」、「知性」、「生きる力」をどのように養い、育てていくのか。</p> <p>② 「AI社会の到来」、「プログラミング教育導入」、「コロナ禍での教育」など、時代の変化。</p> <p>③ 「地域の拠点としての学校」と「子供たちの教育」</p> <p>上記①～③の視点を踏まえての答弁を求める。</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			3. 平和と人権について	<p>(1) 『「平和を」の都市宣言』から15年が経過する。この宣言の成果と課題を問う。</p> <p>(2) 永井隆博士顕彰基金枯渇を危惧する。これまで「基金が枯渇をしても、大切な事業なので継続する。」との答弁だが、それでは永井隆平和賞事業の継続が担保されるとは言えない。同基金、同事業が長く継続できるよう求める。見解を問う。</p> <p>(3) 未だなくならない差別、各種ハラスメントは、市民が主役のまちづくりにとって大きな障害だ。持続可能な地域社会の実現に向けても解決されなければならない課題だ。行政は重要な役割を担っている。早期解消を求める。見解を問う。</p>	
16	8	細 木 照 子 (一 括)	<p>1. 地球温暖化対策の取り組みについて</p> <p>2. 「高齢者対策部」の設置について</p> <p>3. 介護保険制度の</p>	<p>(1) 日本は「四季の国」である。しかしここ数年、夏・冬の二季に感じられる。これが「地球温暖化」のためなら、早急に何らかの手を打たないと、人間をはじめとした生物は、「生存の危機」に直面すると思う。</p> <p>この対策は、地球規模で取り組む問題であるが、市の立場からの見解を伺う。</p> <p>(1) 今年の3月議会でも、この質問を取り上げた。県内他の市でも設置が無いし、市でも「高齢者対策部」の設置は、現在、必要性が無いとの答弁をいただいた。</p> <p>しかし、後期高齢者の生活実態は、後期高齢者にならないと、理解出来にくい。この特殊性を十分に理解し、「高齢者対策部」の設置をして、本当の高齢者目線で行う事は大変に重要である。市でも、設置方再考は出来ないか、伺う。</p> <p>(1) 今年の6月議会でも、この種の質問をして、親切な答弁をいただ</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			維持について 4. 路面標示の実態 について	<p>いた。この介護保険制度維持の重要性に鑑みて、繰り返しになる部分もあるが、</p> <p>①介護職場の人手不足は、仕事内容に対して、余りにも賃金が安く嫌がられる。</p> <p>②職場の責任者の方が、深夜の介護対応等を、キチンと視察して、仕事相応の待遇が出来ているかを、理解されているか。</p> <p>③厳しい仕事でも、それ相応の待遇がキチンとしておれば、そう簡単に人手不足は起こらない。</p> <p>以上について、再度、事業実態を十分に把握し、円滑な維持を続けられたく伺う。</p> <p>(1)道路の路面標示の整備は、大変重要で絶えず完璧に維持する必要がある。なぜ、この様な重要なことが、後手後手になるのか。運転免許試験の時の問題では、路面標示や標識はキチンとしたもので示される。しかし、実態は「かすれ」や「消え」で目に余る状態である。これらは交通安全のために、毎日重要な役目をしているのに、なぜ、かすれや消えを大目に見るのか。</p> <p>専門的に見れば、「あの道路は、何カ月位で、標示が消える」くらい、解るはずである。それらによって予算措置をして、標示の途切れが無い様な配慮が重要だ。</p> <p>路面標示の、かすれや消えが、交通事故に繋がる危険性は大きい。見解を伺う。</p>	
17	4	中 村 辰 眞 (一問一答)	1. 新型コロナウイルス感染症拡大防止策に関して	<p>(1)感覚過敏について</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、ほとんど常識となりつつあるマスクの着用。酷暑が続いた今夏においては、息苦しさな</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			2. 戦後 75 年について	<p>どを軽減するために、近くに人がいないような場合は、マスクを外すことを奨めている。県境を越える移動の自粛が求められたときに発生した「自粛警察」が大きな物議をかもしたが、マスクの未着用者に対しては「マスク警察」が出現している。感染拡大防止のためにはマスクを着用することは大事なことだが、一方では、マスクができない方がいる事も知らなければならない。</p> <p>①感覚過敏でマスクの着用ができない体質の方がいるが、本市としてどのようにとらえているのか伺う。</p> <p>②感覚過敏でマスクの着用ができない人がいる事の正確な情報を市民に向けて啓発する必要はないか伺う。</p> <p>③マスクの着用ができない感覚過敏の方が行える咳エチケットについて伺う。</p> <p>先の大戦終結から 75 年の節目を迎えた。過去には多くの議員から「証言集」の作成を求める声が一般質問の場においても上がっていた。制作意欲のある答弁があったと認識していたが、現実として実現していないと考える。市内においては、いくつかの団体が独自に戦争体験を取りまとめたりしている。しかし、雲南市として公式に証言を取りまとめたものはないと認識している。</p> <p>NHK の朝の連続ドラマでは、古関裕而氏が取り上げられている。同時に永井博士の執筆された「長崎の鐘」をモチーフとした歌詞に同氏が作曲したことで、永井博士の偉業がマスコミで紹介されている。そして永井隆記念館が来春完成予定である。</p> <p>多くの学識者が戦後 75 年を迎えるにあたり、異口同音に戦争の証言</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			3. 市内透析患者の送迎に対する地域格差解消について	<p>を収集できるのは「あと5年」といつている。</p> <p>(1)「あと5年」がタイムリミットであれば、雲南市の「記憶遺産」をプロジェクトとして本格的に収集・作成をしなければならないと考えるが見解を伺う。</p> <p>市内で透析治療を行っている医療機関は市立病院を含め3箇所と認識している。</p> <p>透析患者の体調は透析を受ける前よりも、受けた後の疲労感が強くなるといわれている。全国的に見ても透析患者の送迎サービスを行っている医療機関が多いと認識している。</p> <p>患者家族にとっても送迎がある事で安心して治療に送り出せる。しかし、市内の場合自治体医療機関と民間医療機関とあり、それぞれの送迎状況を見てみると、地域間での格差が生じているように感じている。これは患者本人及び家族の視点で見れば納得しがたいものがあるように思える。個々の医療機関の問題としてではなく全体感を持って市として対応をしていくべきと考える。</p> <p>(1)透析患者にとっては、一生続く医療行為である。歳を重ねるごとに自力通院に対して不安を感じる所である。さらには、送迎がされない地域においては患者の家族に負担がかかっている現状がある。送迎の地域間格差は改善しなければならないと考える。市としてこの問題についてどのように認識し、どのように解決を図るのか考えを伺う。</p>	
18	3	松林孝之 (一問一答)	1. コロナ対策と災害対応について	<p>1. 経済について</p> <p>(1)経済支援策として6月定例会、5月、7月の臨時会で提案された補正予算の執行状況は。</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>(2)市の飲食・宿泊・タクシー業消費喚起支援事業は、県のプレミアム飲食券事業で対象外となった業種をカバーする支援策として評価するが、実態として同じ業種でありながら適用外となる事業所も実在するが、把握しているか。</p> <p>(3)東京都が発行している「感染防止徹底宣言ステッカー」のようなコロナ対策を講じた事業者に認定証等を交付し、後押しするような施策の考えは。</p> <p>(4)事業者支援もさることながら、収入減の長期化に伴い家計もひっ迫している。消費者支援策としてのプレミアム商品券事業が必要ではないか。</p> <p>2. 相談体制について</p> <p>(1)市HPにコロナ感染症に関する部局ごとの相談窓口案内があるが、相談件数と内容は。</p> <p>(2)コロナに対する不安は長期化と共に複合化してきている。事業者・消費者・市民目線の総合窓口の設置が必要ではないか。</p> <p>3. 災害対応について</p> <p>(1)線状降水帯、ゲリラ豪雨、台風と、豪雨災害の最も危険度の高い時期となったが、指定避難所設置時の感染症対策には万全を期さなければならない。高齢者や乳幼児、基礎疾患を有する人は感染の懸念から避難所へは行かない選択も考えられる。自家用車で公共施設や近隣事業所の駐車場へ車中避難するという、コロナ禍における新たな避難のあり方を市民、企業、行政が一体となって見出すことが重要ではないか。</p>	